

開発途上国の課題解決で ビジネスチャンスを掴む



愛知県



次世代型モビリティ(ドローン)でルワンダ農業に革新



莫大なコストのインフラ整備を飛び越える イノベーションを

私が所属する「未来創生センター」は将来の技術やビジネスの種を創造していく役割を担っています。最後の成長市場といわれるアフリカは世界各国から注目されていますが、日本企業の存在感は薄いのが現状です。グローバル企業として、アフリカ諸国にどんな貢献ができるかを考えていたところ、ルワンダのJICA職員の方から中小企業・SDGsビジネス支援事業を紹介されました。

ICT立国を掲げるルワンダはドローンの活用が盛んです。輸血用の血液を空輸するなど、莫大なコストが必要なインフラ整備のステップを一気に飛び越えた、斬新な試みが様々な分野で起こっています。

主要産業は農業でGDPの4割を占め多くの国民が従事していますが、アフリカ諸国の生産性は低く、世界平均の半分ほどです。その要因のひとつは地方の物流インフラの未整備。幹線道路の整備は進んでいますが、郊外や農村部は歩くことさえ困難な道が多く、雨が降ればぬかるみ自動車も走れません。

パートナーシップで ルワンダ産の花を欧州市場に

プロジェクトはドローンを活用し、農業に革新を起こすことです。地上走行型のドローンは作物の生育状況を撮影して分析し、病害虫の確認や水やり、施肥の最適化に反映させます。栽培しているのは高付加価値の花(リンドウ)で、品質、収穫量ともに向上させることを目的としています。空飛ぶドローンは農作物の出荷に使います。輸送手段を空輸にすれば、道路整備費の削減が可能になり、最短距離で出荷できるメリットも生まれます。空輸の実証実験はこれからですが、ルワンダ産リンドウの欧州市場における競争力を強化させるのが最終的な目標です。

今回はJICAをはじめ、ドローン事業を手がけている楽天、ルワンダで農園を営む日本人経営者などのパートナーシップにより、社会貢献及びビジネス展開の可能性を模索しております。現地の雇用拡大や所得安定に必要な技術移転の状況を確認しながら、事業化の可能性を検証していきます。



JICA事業で目指す
SDGs GOALS



TOYOTA
トヨタ自動車株式会社

愛知県豊田市トヨタ町1番地

未来創生センター主査 草嶋 隆行さん

お問い合わせ先

JICA(ジャイカ)中部
企業連携課

☎052-533-1387(直通)

✉cbictps@jica.go.jp